

- 問1 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した | 2. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた | 3. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした | 4. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した |
|---|---|---|---|
- 問2 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|-------------------------------------|---|---|
| 1. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。 | 2. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿弥陀堂を建立した。 | 3. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。 | 4. 地方を治める国司が、天皇の代替わりのたびに新しい行政拠点として建立した。 |
|---|-------------------------------------|---|---|
- 問3 聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した際、隋の皇帝に宛てた国書の中に「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す、恙なきや」という一節がありました。このような表現を用いて使節を派遣した聖徳太子の意図として、最も適切な説明を選んでください。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 隋の皇帝の臣下として認めてもらい、朝鮮半島での軍事的優位を確保するため | 2. 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため | 3. 隋で流行していた新しい仏教の経典を、日本へ無償で提供してもらうため | 4. 当時の中国の圧倒的な武力を背景に、日本の統治権を委ねる意思を示すため |
|--|---|--------------------------------------|---------------------------------------|
- 問4 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）は、中国の高度な制度や文化を学ぶために小野妹子らを派遣しました。このとき、小野妹子らが派遣された、南北に分かれていた中国を約300年ぶりに統一した王朝の名前として正しいものを選びなさい。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 唐 | 2. 秦 | 3. 隋 | 4. 漢 |
|------|------|------|------|
- 問5 7世紀半ばの朝鮮半島は、北部の高句麗、東部の新羅、南西部の百済が対立していました。白村江の戦いにおいて、日本が支援した国と、日本が戦った連合軍の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 支援した国：高句麗、連合軍：隋・新羅 | 2. 支援した国：百済、連合軍：高句麗・新羅 | 3. 支援した国：百済、連合軍：唐・新羅 | 4. 支援した国：新羅、連合軍：唐・百済 |
|-----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|
- 問6 大宝律令のもとでの人々の負担について記した資料によると、口分田を与えられた農民には、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、布や特産品を納める負担や、九州の北海岸を警備する「防人」などの兵役が課されていました。このような制度が整えられた主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。 | 2. 有力な農民に土地の私有を認めることで、地方の開墾を促進し、農業生産力を高めるため。 | 3. 土地を所有する権利を証明する「地券」を発行し、税制を金納に統一して財政を安定させるため。 | 4. 地主から土地を買い上げて小作人に安く売り渡すことで、農村の貧富の差を解消するため。 |
|--|--|---|--|
- 問7 聖徳太子が活躍した7世紀前後の外交や文化に関する記述として、正しいものはどれか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 元寇による危機を乗り越えるため、執権を中心とした武家政権が沿岸部の防備を強化した。 | 2. 鑑真を日本に招き、唐の進んだ律令制度を完成させるとともに、国風文化を大きく発展させた。 | 3. 倭の五王が中国の南朝に使いを送り、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めるよう求めた。 | 4. 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。 |
|--|--|---|--|
- 問8 大宝律令が制定されたことによる政治の変化について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 天皇の命令を文書にする役所や図書の管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。 | 2. 武士が領地を支配する上での基準を示すため、裁判の公平さを期する仕組みが初めて全国的に整備された。 | 3. 氏姓制度を廃止し、地方の豪族が持っていた私有地と私有民をすべて国が直接支配する公地公民制が完了した。 | 4. 室町幕府が新しい政治の方針を示すために、鎌倉時代の慣習を基にした独自の法典を定めた。 |
|---|---|---|---|
- 問9 7世紀後半、中大兄皇子らが中心となって行われた政治改革である「大化の改新」ののち、唐・新羅の連合軍に敗れた「白村江の戦い」を経て、強力な中央集権国家を目指して8世紀初頭に制定された法令を選びなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|----------|-------------|
| 1. 大宝律令 | 2. 武家諸法度 | 3. 御成敗式目 | 4. 禁中並公家諸法度 |
|---------|----------|----------|-------------|
- 問10 聖徳太子が推古天皇の摂政として行った政治改革の一つで、家柄にとらわれず、個人の才能や功績に応じて位を与え、役人に取り立てる制度の名称は何か。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-----------|----------|----------|
| 1. 公地公民 | 2. 十七条の憲法 | 3. 冠位十二階 | 4. 班田収授法 |
|---------|-----------|----------|----------|
- 問11 7世紀後半、倭国（日本）は友好関係にあった百済の再興を支援するため、朝鮮半島に大規模な軍を派遣しました。しかし、663年に現在の韓国付近の河口で唐・新羅の連合軍と激突し、大敗を喫しました。この出来事を何といえますか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|---------|-----------|---------|
| 1. 白河上皇の院政 | 2. 文永の役 | 3. 白村江の戦い | 4. 壬申の乱 |
|------------|---------|-----------|---------|
- 問12 聖徳太子、鑑真、平清盛、フビライ・ハン、豊臣秀吉の5人の人物について、それぞれが歴史上注目される出来事に関わった時代が古い順に並べられているものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 鑑真 → 聖徳太子 → 平清盛 → 豊臣秀吉 → フビライ・ハン | 2. 聖徳太子 → 鑑真 → 平清盛 → フビライ・ハン → 豊臣秀吉 | 3. 聖徳太子 → 平清盛 → 鑑真 → フビライ・ハン → 豊臣秀吉 | 4. 聖徳太子 → 鑑真 → フビライ・ハン → 平清盛 → 豊臣秀吉 |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問13 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。 | 2. 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。 | 3. 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。 | 4. 役人が職務を行ううえでの心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問2	答え 3 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選択肢にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。
問3	答え 2 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため	それまでの日本の外交は、中国の皇帝から称号を授かることで地位を認めてもらう「朝貢」の形式が一般的でした。しかし、聖徳太子は自らを「日出づるところの天子」と称し、隋の皇帝と対等の立場で交流しようと試みました。これには、日本の独立性を高めつつ、高度な技術や制度を吸収しようという目的がありました。
問4	答え 3 隋	聖徳太子は、中国の統一王朝である隋に対して「遣隋使」を派遣しました。それまでの朝鮮半島を通じた交流だけでなく、中国と直接国交を結ぶことで、先進的な仏教文化や政治制度を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指しました。
問5	答え 3 支援した国：百済、連合軍：唐・新羅	当時の東アジアでは、中国大陸を統一した唐が勢力を拡大しており、朝鮮半島では新羅が唐と結んでいました。日本は古くから交流のあった百済の復興を助けるために参戦しましたが、唐と新羅の強力な連合軍に敗れました。
問6	答え 1 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。	律令国家は、土地と人民はすべて天皇（国家）のものであるという「公地公民」の思想を基本としていました。班田収税法によって人々に口分田を配分する見返りとして、租・調・庸といった税や兵役などの重い義務を課し、中央集権的な国家体制の財政と防衛を支えようとしていました。
問7	答え 4 小野妹子を遣隋使として中国に派遣し、大陸の進んだ制度や仏教などの文化を積極的に取り入れた。	聖徳太子は、対等な立場での外交を目指して遣隋使を派遣しました。ここでの学びが、日本初の憲法とされる「十七条の憲法」における仏教の尊重や、儒教的な役人の心得といった内容に反映されています。
問8	答え 1 天皇の命令を文書にする役所や図書の管理を行う役所が設置されるなど、大陸の進んだ政治制度が取り入れられた。	大宝律令の制定により、唐の官制を模した二官八省という中央官庁の仕組みが整えられました。天皇の秘密的な役割を果たす役所（中務省）や図書を管理する役所（図書寮）などが置かれ、法に基づいた組織的な政治運営が行われるようになりました。
問9	答え 1 大宝律令	唐の律令を模範として701年に制定されたこの法令により、日本は本格的な律令国家として歩み始めました。刑法にあたる「律」と、行政法にあたる「令」が整備されたことで、天皇を中心とする中央集権的な統治体制が確立されました。
問10	答え 3 冠位十二階	才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が登用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。
問11	答え 3 白村江の戦い	663年に朝鮮半島で起こった白村江の戦いでは、倭国（日本）が百済の復興を支援しましたが、唐と新羅の連合軍に敗北しました。この結果、倭国は朝鮮半島での影響力を失い、国内の防衛体制や中央集権化を急ぐこととなりました。選択肢にある壬申の乱は天智天皇の死後に起こった後継者争い、白河上皇の院政は平安時代末期の政治形態であり、時期や内容が異なります。
問12	答え 2 聖徳太子 → 鑑真 → 平清盛 → フビライ・ハン → 豊臣秀吉	各人物が関連する時代は、聖徳太子が飛鳥時代、鑑真が奈良時代、平清盛が平安時代末期、フビライ・ハンが鎌倉時代（元寇）、豊臣秀吉が安土桃山時代となります。したがって、時代順に並べると「聖徳太子 → 鑑真 → 平清盛 → フビライ・ハン → 豊臣秀吉」の順になります。
問13	答え 2 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。